

■トビタテ！留学 JAPAN

皆さんはこちらのポスターをご覧ください。トビタテ！留学 JAPAN」のポスターです。「トビタテ！留学 JAPAN」とは、文部科学省が、意欲と能力ある全ての日本の若者が、海外留学に自ら一步を踏み出す気運を醸成することを目的として、官民協働で取り組む海外留学支援制度です。奈良市は、市町村で初めて、平成 27 年度に「トビタテ！留学 JAPAN」地域人材コースの採択を受けました。59 の地域企業・団体からご協力いただき、平成 28 年度に第 1 期生 6 人が留学しました。今回は、この事業に込めた教育への思いをお話ししたいと思います。



奈良市トビタテ！留学 JAPAN 「地域人材コース」
(<http://www.city.nara.lg.jp/www/contents/1424650930284>)

■高い志をもち留学先へ、そして新しい価値観が

第 1 期生の中から佐藤さんと中村さんの事例を紹介します。佐藤さんは、大学で観光を学んでおり、「ハワイで学ぶブライダルツーリズム」をテーマとしてこの事業に参加する中で、より高い課題「LGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー）のカップルの日本式結婚式を企画し、実現させる」を提案し、挑戦しました。現地では結婚式を開催するために、結婚式場や協力者との調整も彼女自身の力で行いました。ところが、日本のようにはスムーズにいかず、時間に遅れる、土壇場でキャンセルされるなど、いろいろな問題が起こり、文化の違いや多様な価値観があることを痛感します。しかし、彼女は違いを違いとして受け入れ、課題をやり遂げました。また、自分はマイノリティの方には不幸だと思っていたことが、留学先では多くの人と同じように人生を楽しんでいることに気づき、日本でもそうならばよいと感じたようです。

もうひとり、中村さんには来ていただいていますので、本人から話してもらいます。

父がガーナ人で、物心ついた頃から自分のルーツを意識することが多くあり、父の国であるガーナについて、もっと深く知りたいと思っていました。また、大好きな奈良とガーナとの懸け橋になりたいとも思い、「ルーツをつなぐ」というテーマで留学し、現地の旅行会社でインターンをしました。そこでは、日本からガーナへ日本の文化を発信したり、ガーナから日本へガーナの文化を発信したりしました。私は、自分がハーフであるということで、日本では生きづらさを感じていました。父の故郷であるガーナに行けば、ガーナ人とし



て認められ、その生きづらさが解決されると思っていました。しかし、そこでもガーナ人として 100%受け入れられない現実がありました。戸惑いましたが、自分もガーナ人も楽しいことは楽しいし、悲しいことは悲しいと感じます。知らないことはお互いさまで、同じ人間として関わってみると、同じことの方が多くことに気づきました。ガーナ人も日本人とも違うかもしれないけれど、それがいいとか悪いとかではなく、ただ違うということだけだと価値観が変わり、自分も皆も一人一人が地球人だと思えるようになりました。奈良は1300年の歴史があり、国際交流も盛んです。そんな奈良だからこそ、もっとグローバルな価値を認め合えるはず、国籍のカテゴリーにとらわれず「誰もが地球人」、こうした新しい価値観が広まればと思っています。

第1期生たちは、留学で全く異なる環境の中に身を置くことによって、改めて自分自身について考えたのではないのでしょうか。自分と考え方も言葉も文化も異なる人たちと生活することは簡単なことではありません。自分と違う価値観を受け入れようとするためには、自分が変わろうとする強い意志や高い志が必要だと思います。

■世の中は多様性で満ちあふれている

グローバル化が進展し、日本に住む外国人はこの20年で約10倍になりました。外国人労働者も4年連続で過去最高を記録し、上司や同僚が外国人という企業が増えています。見方を変えると、学校や役所のような日本人中心の職場などは少数派です。学校は、グローバル化からかけ離れた所にあることを意識し、これから子どもたちが卒業した後に生きていく社会はより一層多様性に満ちたものになると考えてほしいと思います。

誰もが楽しく、幸せに生きるために多様性を認め合うことが必要不可欠です。国籍の違いだけでなく、体に障がいを持つ方や、佐藤さんが取り上げたLGBTの方など、社会の中には様々なマイノリティな立場があります。20～59歳の約8%がLGBTだという調査もあり、教室の中にもそうした子どもがいるということが分かると思います。

■社会や世界を変えようとする人こそ、多様性を認められる人



一人一人が幸せになるために教育はあります。私達は、より良い社会をつくる担い手となる人材を育てていかなければなりません。社会や世界を変えようという人こそ、自分の価値観と違う価値観を受け入れる、多様性を認められる人ではないかと思います。「トビタテ！留学 JAPAN」の第1期生は、まさにそのような経験をしてきたのだと思います。社会を変革する「ミネルヴァの梟（平成29年4月教育長講話参照）」に育ってくれることを期待しています。

第4次産業革命で大きく変わる社会に向けて、自らの価値観と違う価値観を受け入れることができる人を育てることが大切です。このような人材を育てるためには、学校から出たもう少し先の社会に目を向けることが必要でしょう。すでに多様化した社会の中に生きて

いることを意識し、多様な価値観を認め合い、新たな価値を創造する子どもたちを育てるために、学校現場でできることは何なのか考えてほしいと思います。